

# 令和5年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター 第8号 令和5年8月31日発行  
 TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225  
<http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



## 1. 気象経過

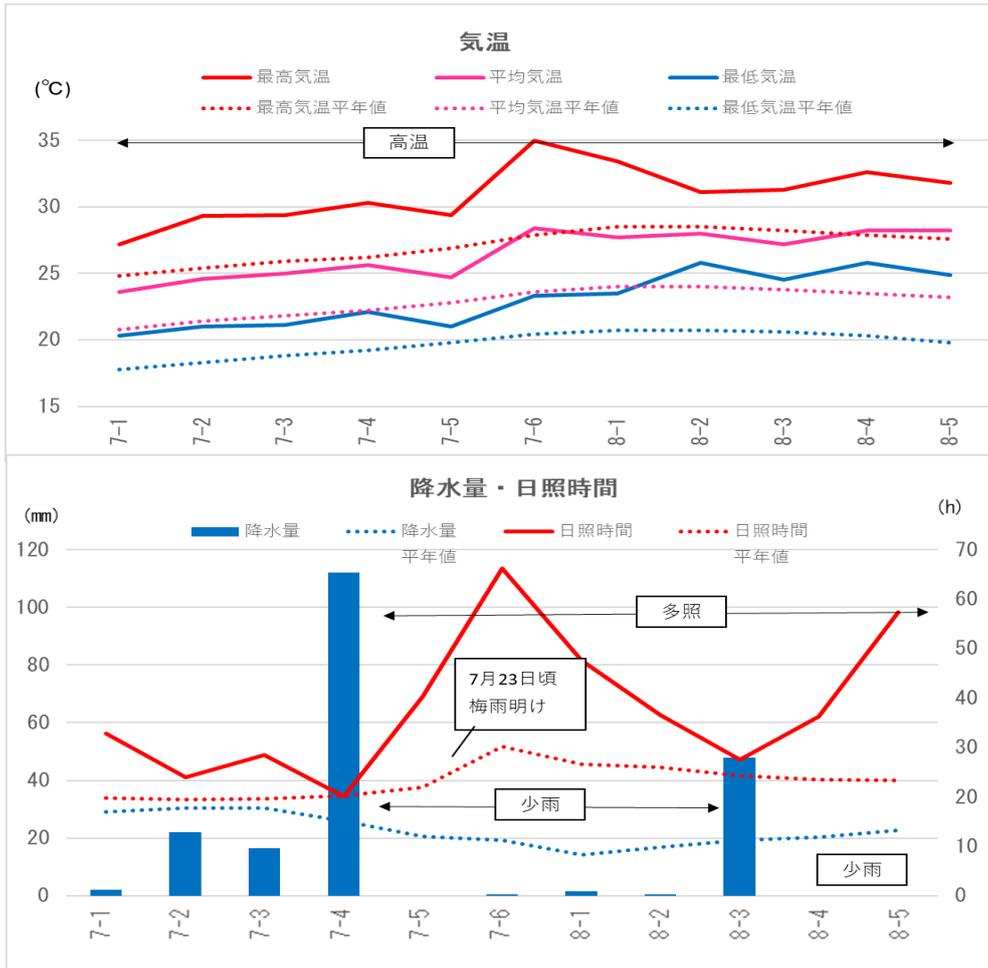


図1 7月からの半旬別気象経過

**【気温】**  
 全体的に高く推移し、特に7月第6半旬以降の平均気温は平年より3~5度高くなっています。7月24日以降、8月28日現在で36日連続の真夏日を記録しています。

**【降水量】**  
 少雨傾向が続いており、梅雨明け以降は1mm以上の降雨のあった日は3日にとどまっています。

**【日照時間】**  
 7月以降多照傾向が続いており、7月の日照時間は平年比164%となっています。

(データすべて鹿島台アメダス、8月28日まで)

## 2. 出穂の状況

表1 管内の出穂状況

	出穂始期	出穂期	穂揃期
本年	7月25日	7月28日	8月3日
前年差	4日早い	6日早い	10日早い
平年差	4日早い	5日早い	7日早い

出穂始期、出穂期、穂揃期は、出穂期(全茎の50%以上が出穂)に達した面積が5%、50%、95%以上となった日とする。

生育期間中高温で推移しているため、出穂期は平年に比べかなり早まっています。また、移植ほ場では、田植え時期にかかわらず、ほぼ一斉に出穂したことも今年の特徴です。

### 3. 出穂後 25 日調査結果

表2 生育調査結果

調査地点	品種	区分	田植日	出穂日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂粒数 (粒)	粒数 (百粒/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)	
移植	涌谷 (小塚)	ひとめ ぼれ	本年値	5月9日	7月27日	90.7	19.3	427.1	74.7	319.0	31.6
			前年比・差	+2日	-6日	100%	103%	85%	100%	84%	102%
			県前年比・差	-4日	-6日	108%	105%	95%	111%	107%	96%
	田尻 (桜田高野)	ひとめ ぼれ	本年値	5月4日	7月27日	90.8	18.6	394.5	70.3	277.3	24.2
			前年比・差	-1日	-5日	94%	99%	90%	105%	94%	87%
			平年比・差	-5日	-5日	105%	100%	89%	94%	84%	81%
	鹿島台 (広長)	ササニ シキ	本年値	5月12日	7月28日	92.2	18.6	454.4	80.1	364.0	27.0
			前年比・差	-2日	-11日	111%	103%	106%	97%	103%	87%
			県前年比・差	+3日	-5日	114%	104%	97%	110%	108%	82%
	鹿島台 (木間塚)	だて正夢	本年値	5月21日	8月3日	83.8	21.2	320.3	109.9	352.0	34.0
			前年比・差	+6日	-12日	83%	109%	89%	116%	104%	102%
			平年比・差	+6日	日	89%	110%	82%	125%	103%	94%
南郷 (和多田沼)	金の いぶき	本年値	5月6日	8月4日	87.5	21.5	385.3	77.4	298.2	28.8	
		前年比・差	±0日	-2日	90%	99%	90%	86%	77%	95%	
		平年比・差	+2日	日	99%	104%	100%	99%	99%	90%	
直播	小牛田 (荻埜)	ゆみあずさ 鉄コー	本年値	5月3日	8月4日	76.0	20.7	339.9	83.9	285.2	24.9
			前年比・差	-3日	+1日	84%	104%	64%	94%	60%	64%

※平年値は過去5年間の平均値。県平年値は県調査ほの平均値。

- ・ 稈長は平年並みの田植日のところでは長め、穂数は少なく、穂長がやや長い傾向です。
- ・ 葉色はすべてのほ場で平年を下回っています。
- ・ m<sup>2</sup>当たり粒数はほ場によりばらつきがあり、平年に近い葉色を確保できているほ場では粒数が多い傾向があります。
- ・ 一部で紋枯病が見られます。またササニシキでは15%程度の不稔が見られています。

### 4. 積算気温からみた刈取適期

高温で例年になく早まっており、また適期が短くなる予測です。

表3 品種別刈取適期の目安

品 種	目安となる 積算気温	出穂期					
		7/24	7/28	8/1	8/5	8/9	8/13
ひとめぼれ まなむすめ	940°C(早限)	8/27	9/1	9/6	9/11	9/16	9/21
	1,000°C	8/29	9/3	9/8	9/13	9/18	9/24
	1,100°C(晩限)	9/2	9/7	9/12	9/17	9/23	9/28
ササニシキ	930°C(早限)	8/27	8/31	9/5	9/10	9/15	9/20
	1,000°C	8/29	9/3	9/8	9/13	9/18	9/24
	1,150°C(晩限)	9/4	9/9	9/14	9/19	9/25	10/1
つや姫	1,000°C(早限)	8/29	9/3	9/8	9/13	9/18	9/24
	1,100°C	9/3	9/8	9/13	9/18	9/24	9/29
	1,200°C(晩限)	9/6	9/11	9/17	9/22	9/28	10/3
だて正夢	1,000°C(早限)	8/29	9/3	9/8	9/13	9/18	9/24
	1,050°C	9/1	9/6	9/11	9/16	9/21	9/27
	1,100°C(晩限)	9/2	9/7	9/12	9/17	9/23	9/28
金のいぶき	1,050°C(早限)	9/1	9/6	9/11	9/16	9/21	9/27
	1,100°C	9/3	9/8	9/13	9/18	9/25	9/29
	1,150°C(晩限)	9/4	9/9	9/14	9/19	9/26	10/1

※鹿島台アメダスの平均気温(8月29日までは実測値、以降は準平年値)から予測。

## 5. 今後の管理

### (1) 適期収穫

☆コンバイン収穫作業では、収穫時の籾水分が高すぎると、籾や玄米に損傷を与え、胴割粒が増加し、品質低下の原因となります。

**籾水分 25%以下を目安に収穫**しましょう。

☆**籾の 90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から 1/3程度黄変したときが刈取適期**なので、葉色にまどわされず穂をよく観察しましょう。

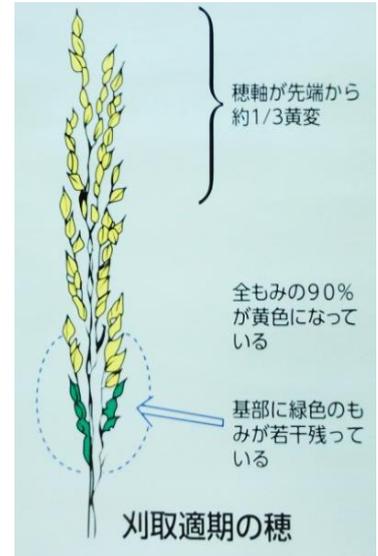


図2 刈取適期の穂

### ＜籾熟色によるコンバイン収穫期の予測判定＞

ひとめぼれでは、平均的穂数株(枝梗数8)の中位二次枝梗籾の籾色を観察することにより成熟段階を判定でき、刈取適期を予測できます。(図2参照)。

- ◆成熟段階Ⅰ：第1位籾が急速に黄化開始。
- ◆成熟段階Ⅱ：第1位籾がほぼ(90%)黄化。(7日以内で刈り取り早限)
- ◆成熟段階Ⅲ：第1位籾のほとんど(95%)黄化し、第2・3位籾が黄化開始(刈り取り早限)
- ◆成熟段階Ⅳ：第1位籾の黄化100%、第2・3位籾の30%が黄化(積算温度1000°C程度)
- ◆成熟段階Ⅴ：第2・3位籾が50%以上黄化(刈り取り晩限)

刈取適期

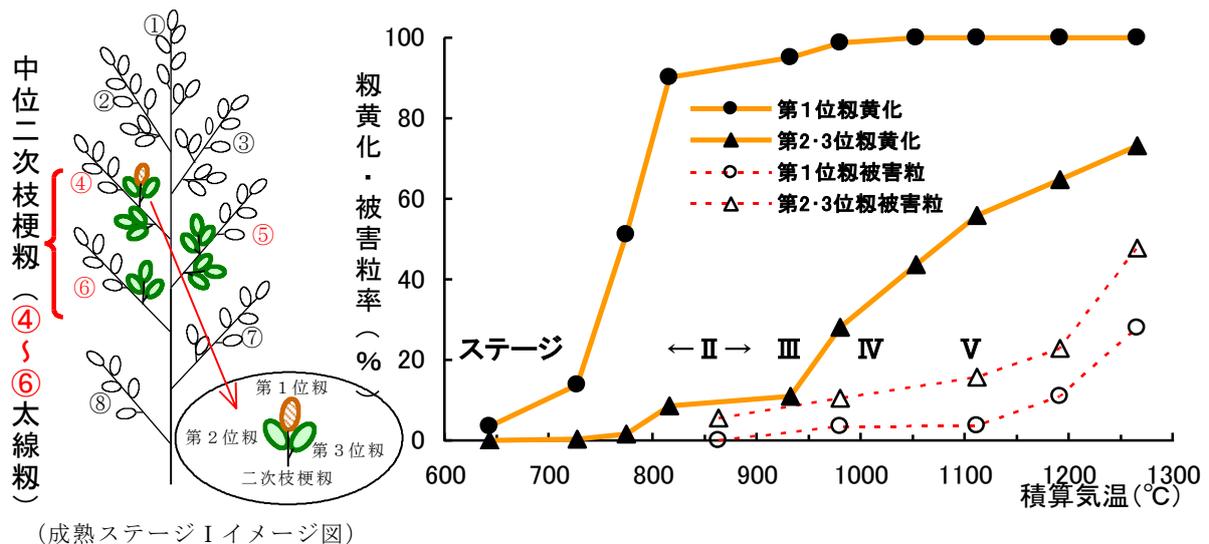


図3 積算温度と穂の中位二次枝梗籾黄化率の推移

☆倒伏した稲や水口など、成熟期の遅れた稲は籾水分が高いので、収穫時期や籾袋を別にして他の正常な籾に混ぜないで乾燥しましょう。

☆刈り遅れは胴割れ粒、穂発芽、茶米などの被害粒の発生により玄米品質を低下させます。良食味米を確保するには、刈取り適期内にあっても、できるだけ早く刈取ることが望ましいです。

☆クサネムやツユクサは、脱穀時に種子が混入すると、揺動式比重選や粒径選でも取り除きにくいので、収穫作業前に必ず抜き取りましょう。

☆鉄コーティング直播や紋枯病が発生しているほ場は特に倒伏しやすいので、適期に達したら早めに刈り取りましょう。

## (2) 乾燥・調製

☆コンバイン収穫した生籾を放置すると、発熱して変質米の原因となるため、速やかに乾燥機に張り込み送風循環しましょう。

☆倒伏した稲や未熟粒の多い稲などは高水分籾の混入が多いため、過乾燥となりやすく、胴割米の発生・碎粒の増加・光沢の低下など品質低下を招きます。

高水分籾を機械乾燥する場合は、二段乾燥（籾水分が20%以下になるまで乾燥した後、乾燥を一時停止し、籾の水分むらが少なくなってから再度仕上げ乾燥を行う）を行い、水分むらや胴割米の発生などを抑えましょう。

☆正確な水分測定のためには、玄米の測定サンプルから未熟粒を取り除いて測定しましょう。また、こまめに水分測定することで過乾燥を防止しましょう。仕上がり玄米水分は14.5%~15.0%が目標です。

☆籾摺は肌ずれ防止のため、籾の温度を室温まで下げてから行いましょう。また、ロール式籾摺機の場合は、籾(品種)に見合った適正なロール間隔に調整しましょう。

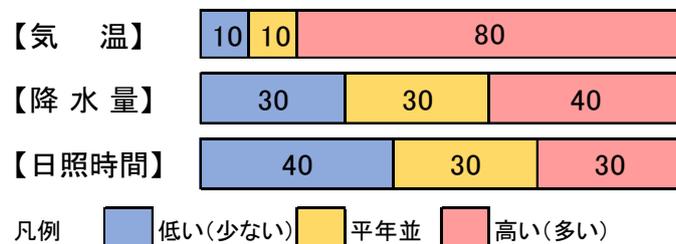
☆異品種の混入を未然に防ぐため、品種が替わる毎に機械類の清掃を徹底しましょう。

◎収穫時の籾水分(平均23%)

乾燥開始	17:00
乾燥機一時休止	22:00
籾水分	約19%
乾減率	0.8%/h
乾燥機一時休止 22:00~翌朝 7:00	
乾燥再開	7:00
乾燥終了	11:00
玄米水分	15.5%
一時貯留槽に排出 11:00~	

図4 二段乾燥の一例(山形農試)

### ◎8/24 気象庁発表 東北地方太平洋側の1か月予報(8/26~9/25)



特に期間の前半は、気温がかなり高い見込みです。天候は平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

9月1日から11月30日は秋の農作業安全確認運動期間です。  
慣れた作業でも、慌てず、焦らず、農作業事故防止に努めましょう！